

登録コード	TSS08507	開講年度	2026					
授業科目	機械物理演習				担当教員	加藤 賢太郎		
英文授業名	Seminar in Mecahnical Physics, 2				副担当	松原 雅春		
単位数	2	講義期間	不定期	曜日・時限	集中・不定期		対象学生	
講義室			授業形態	演習	備考			
信大コンピテンシー	該当							
(1)授業の達成目標	【授業で得られる「学位授与の方針」要素】				【授業の達成目標】			
	2 6 TSカリ, 2 5 TSカリ							
	【専攻】工学分野の研究者・技術者として科学・技術を発展させるための幅広い見識と健全な倫理観				流体力学を発展させるための幅広い見識を使いこなすことができる．			
	【専攻】さまざまな課題に対処できる高い情報収集・分析能力とグローバルな情報発信能力				流体力学の課題に対処できる高い情報収集・分析ができる			
(2)授業の概要	ゼミナール形式で環境機械の基礎に関する演習を実施する。実施形態は集中講義形式にて実施し、前期集中20時間、後期集中20時間、の合計40時間の演習を実施する。							
(3)授業計画	第1回（前期集中5時間、1コマ2時間×1日2.5コマ）：ガイダンス、基礎演習・解説 第2回（前期集中5時間、1コマ2時間×1日2.5コマ）：機械物理（熱工学）文献調査演習 第3回（前期集中5時間、1コマ2時間×1日2.5コマ）：機械物理（流体工学）文献調査演習 第4回（前期集中5時間、1コマ2時間×1日2.5コマ）：グループ討論 第5回（後期集中5時間、1コマ2時間×1日2.5コマ）：機械物理（熱工学）プレゼンテーション演習 第6回（後期集中5時間、1コマ2時間×1日2.5コマ）：機械物理（流体工学）プレゼンテーション演習 第7回（後期集中5時間、1コマ2時間×1日2.5コマ）：機械物理（熱工学）英語基礎学術論文輪講・解説 第8回（後期集中5時間、1コマ2時間×1日2.5コマ）：機械物理（流体工学）英語基礎学術論文輪講・解説 最終プレゼンテーション・討論，授業アンケート							
(4)成績評価の方法	レポート50点、プレゼンテーション・討論50点、の合計点で評価する。90点以上を秀、80点以上90点未満を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可とする。							
(5)成績評価の基準	流体力学を理解しており，基本方程式の演算ができるかを目安とする．							
(6)事前事後学習の内容								
(7)履修上の注意	熱力学，伝熱工学，流体力学に関連する科目を履修していることが望ましい．							
(8)質問,相談への対応	教員室にて常に受け付ける．							
(9)その他								
【教科書】	適宜プリントを配布する。							
【参考書】	Transactions of the ASME 日本機械学会論文集B編							